

健

康

脳腫瘍の症状で、しゃべりにくい、思った言葉と違う言葉が出る、言いたいことが伝わらないといった言葉の障害が出る場合があります。言葉の障害は自覚しにくく、周囲からも理解されにくいものです。言いたいことが伝わらないと周囲との

失語症、嚥下障害に対応



イラスト・村田 勝彦

患者の「伝えたい」支援

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
<電088(634)6442>
(平日午前
8時半から5時ま
で)へ。



(第4土曜掲載)

回答 士は言葉によるコミュニケーションやのみ込み（嚥下）の問題への対処を考えるために検査と評価を行い、必要に応じて患者に対し、訓練や指導、助言するリハビリの専門職です。がん治療での言語聴覚士の役割は、がんによつて失語症や、うまく言葉を声に出せない構音障害、嚥下障害が生じた患者に対し、機能の改善や維持、代替手段の獲得を目的にリハビリを実施します。

篠永 晴美
徳島大学病院リハビリテーション部言語聴覚士



家族の入院時に初めて言語聴覚士という仕事を知りました。がん治療での言語聴覚士の仕事について教えてください。

言語聴覚士の仕事



読や会話を用いた実用的な使用できるよう練習します。他にも、がんの手術や治療が原因で、食べ物がのみ込みにくくなったり、むせるようになったりすることがあります。これを嚥下障害と言い、誤嚥性肺炎の原因になります。安全に食べられる方法を助言しながら、音を言葉にし发声を助けける器具です。機器の使用方法を助言しながら、音事の際の姿勢を指導し、栄養士と協力して食べる

練習します。代表的なコミュニケーション機器に人工喉頭があります。人

工喉頭は、あごの下に当たた振動を口の中に響かせ、舌や口の動きで振動音を言葉にし发声を助けます。また、喉頭を摘出すると、声を出せなくなります。

リハビリでは、コミュニケーション機器を使つたコミュニケーションを元通りにはなりません。リハビリで患者が全て元通りにはなりません。がんの進行によってリハビリをしても症状が改善せず、悪化することもあります。それでも患者の不安や悩みが少しでも軽減し、生活の質が向上するよう医療スタッフで連携して支援しています。

がん何でもクイズ
市町村が住民全体の死亡率を下げる目的で行うがん検診は何種類でしょう。
①5種類 ②6種類 ③7種類

行こうよ！がん検診